

目次

	ページ
1. 巻頭言	1
2. 第16期運営委員会および事務局の紹介	2
3. 国立天文台4委員会の外部委員推薦について	3
4. 学術会議関連報告	4
5. URSI 関連報告	6
6. 宇電懇運営委員会報告	6
7. 事務局からお知らせ	7
付録 宇電懇入会のご案内	

1. 巻頭言

第16期の宇電懇運営委員長を拝命しました藤澤です。6名の運営委員と3名の事務局で、これから2年間の運営を担当いたします。どうぞよろしくお願いたします。

さて、宇電懇ニュースは会員の情報媒体として制作されていましたが、2006年のNo. 117以後、発行が停止していました。2006年はALMAの建設が軌道に乗った時期、つまりALMA建設推進運動を行っていた宇電懇の役割が一段落した時期にあたります。それから16年間、ALMAは完成し、電波天文学は新たな時代に到達したと言っても過言ではないでしょう。

一方、日本における電波天文学の将来像はまだ十分に見えていません。

将来の研究のために次世代の電波望遠鏡計画が必要なのは明らかであり、すでに各所で様々な議論が行われています。宇電懇においても、前期の岡委員長のリーダーシップによって将来計画検討WGが設置され、複数の将来計画が深く議論されました。そして議論の結果に基づいて、宇電懇から電波天文の大型計画が学術会議に推薦されています（学術会議のマスタープラン策定に関する方針変更などがあり、この推薦結果がどうなるか未定ですが、これは以下の学術会議関連報告で述べます）。

私見ですが、将来計画検討WGにおける議論で明らかになったことのひとつは、上記の通り、日本における電波天文学の将来像が十分に見えていない、そしてその将来像を当事者である我々が形作らねばならない、ということです。

電波天文学の将来像構築のために、宇電懇が果たすべき役割は大変大きいと思います。将来計画に関わる研究者、将来の電波天文学を率いる研究者、すなわち宇電懇の多くの会員が将来計画について十分に意見を交して検討することが必要です。そして多くの研究者が納得し、また支持する、「我々の電波天文学の研究計画」、すなわち我々自身のマスタープランを作ることが必要だと思うのです。

もちろんこれは容易なことではありません。それでも、将来計画検討WGの活動によって、一定の方針は見えつつあるのではないかと思います。今後も率直かつ丁寧に議論を重ねて、将来計画を形作る

努力が必要です。これは宇電懇の運営委員会だけで進めるような事柄ではありません。宇電懇の多くの会員が自らのこととして将来計画の構築に、そして電波天文学の発展に関与されることが必要です。

宇電懇ニュースを、この目的のために再刊したいと思います。宇電懇ニュースが電波天文学に関連する情報の流通や会員の交流の媒体として活用され、これが宇電懇会員間に連帯感をもたらし、電波天文学の発展へとつながることを期待しています。会員の皆様のご支援を、あらためてよろしくお願いいたします。(藤澤)

2. 第16期運営委員会および事務局の紹介

2022年3月に行われた投票結果に基づいて、第16期運営委員会の構成を以下のように決定した。運営委員の半数を改選する規定に従い、新たに選出された委員は江草、高橋、田村の3名である。運営委員の互選によって藤澤と江草がそれぞれ委員長と副委員長に任命された。事務局は国立天文台先端技術センター(ATC)の松尾(事務局長)、小嶋、金子がつとめる。第16期の任期は2022年4月1日～2024年3月31日である。

運営委員		
氏名	所属	一言
藤澤 健太 (委員長)	 山口大学 時間学研究所	山口 32m/34m ほかを使った電波天文/VLBI の研究を行っています。
江草 芙実 (副委員長)	 東京大学大学院 理学系研究科 附属 天文学教育研究センター	ALMA などを使って近傍(特に渦巻)銀河の力学や星形成を調べています。
河野 孝太郎	 東京大学大学院 理学系研究科 附属 天文学教育研究センター	進めている ALMA 大型プログラム ALCS (重力レンズ銀河団 deep survey) が JWST の初公開データに大当たり!
高橋 慶太郎	 熊本大学大学院 先端科学研究部	パルサー、宇宙再電離、宇宙磁場、宇宙生物学などについて理論的・観測的に研究を行っています。

田村 陽一		名古屋大学大学院 理学研究科	サブミリ波による銀河形成の観測的研究や将来のための観測装置開発をしています。
百瀬 宗武		茨城大学大学院 理工学研究科	ALMA を用いた惑星系円盤の観測研究に加えて、国内 VLBI 主要拠点である茨城局を使った星形成研究、開発等も進めたいです。
事務局			
松尾 宏 (事務局長)			テラヘルツ帯の SIS 光子検出器と強度干渉計の開発を行っています。
小嶋 崇文		国立天文台 先端技術センター	事務局から電波天文学に関わることができて光栄です。
金子 慶子			観測装置開発に関わる技術系職員です。

3. 国立天文台 4 委員会の外部委員推薦について

2022 年 4 月 26 日、国立天文台の吉田道利副台長から、科学戦略委員会、プロジェクト評価委員会、研究交流委員会の 3 委員会について外部委員の推薦依頼があった。宇電懇では会員による投票を行い、投票結果を踏まえて運営委員会で議論を行い、下記の通り決定して、国立天文台に推薦した。

- ・ 科学戦略委員会
河野孝太郎、高橋慶太郎、田村陽一、百瀬宗武
- ・ プロジェクト評価委員会
俣徠和夫、藤沢健太、奥村幸子、新沼浩太郎、久野成夫、酒井剛
- ・ 研究交流委員会
下井倉ともみ、村岡和幸、樋口あや、渡邊祥正、小野寺幸子、江草芙実

並行して、国立天文台アルマ科学諮問委員会(JSAC)から外部委員の推薦を求められたので、上記 3 委員会と同様に投票を行い、以下の 22 名を推薦した。アルマ科学諮問委員会の適任者を研究者コミュニティ(宇電懇)が推薦するのは、今回が初めてのことである。

・アルマ科学諮問委員会

河野孝太郎、田村陽一、江草美実、島尻芳人、高桑繁久、中西裕之、坂井南美、小麦真也、村岡和幸、渡邊祥正、大西利和、佐野栄俊、酒井剛、太田耕司、百瀬宗武、竹内努、立原研悟、和田桂一、廿日出文洋、相川祐理、徂徠和夫、樋口あや

4. 学術会議関連報告

4-1. 概要

宇電懇は電波天文学者のコミュニティとして、学術会議との対応を行っている。

2021年、学術会議から「マスタープラン2023」を策定するために宇電懇へ協力の依頼があり、宇電懇はワーキンググループを設置して議論を行い、大型計画の推薦を行った。ところが途中で学術会議の方針の変更があってマスタープラン2023は策定しないことになり、かわりに「未来の学術振興構想」策定と「大型・中型将来計画の冊子」の制作が行われることになった。

2021年3月から現在にいたるマスタープラン関連の議論と、宇電懇の活動をまとめて報告する。

4-2. 日本学術会議 天文学・宇宙物理学分科会・IAU分科会について

日本学術会議 天文学・宇宙物理学分科会・IAU分科会（以下、分科会と略称）は、学術会議に設置された天文関係の部会で、現在の委員長は林正彦氏である。分科会の概要と会議の資料は以下のサイトで見られる。

<https://www2.nao.ac.jp/~scjastphys/>

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/bunya/buturi/25/giji-tenmongaku.html>

4-3. マスタープラン2023とは

マスタープランとは、学術会議が定める「学術の大型施設計画・大規模研究計画をリストアップしたもの」であり、3年ごとに更新することとなっている。前回のマスタープラン（2020）は以下で見ることができる。

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t286-1.html>

マスタープラン2023を策定の方針は以下の資料に説明がある。

<https://www2.nao.ac.jp/~scjastphys/mp2023/index.html>

https://www2.nao.ac.jp/~scjastphys/mp2023/docs/MP2023_meeting20210302.pdf

4-4. 分科会から宇電懇へ推薦依頼

2021年3月、上記の資料に基づいて、林分科会委員長から分野コミュニティに対して「大型計画を優先順位付けして推薦すること」が要請された。締切は2021年9月末。ここで分野コミュニティとは、宇宙電波懇談会（宇電懇）、光学赤外線天文連絡会（光天連）、高エネルギー宇宙物理連絡会（高宇連）、宇宙線研究者会議（CRC）、太陽研究者連絡会（太陽研連）、理論天文学宇宙物理学懇談会（理論懇）の6団体をさす。

4-5. 宇電懇の対応

分科会の要請に対して、宇電懇運営委員会（岡委員長、当時）は「電波天文分野将来計画検討 WG」を設置して議論し、推薦を行うこととした。2021年5月から11月までの活動を、時系列で以下に記す。

2021/5/11	WGのメンバー決定（[ryunet:00696] 電波天文分野将来計画検討 WG 委員の推薦投票） 岡委員長から、マスタープランへの対応のために、電波天文分野将来計画検討 WG を設置することが公表され、委員の推薦が始まった。投票が行われ、投票の結果と宇電懇運営委員会の議論によって、WGのメンバー（議長は大阪府立大学の大西氏）が決定した。
2021/6/18	電波天文分野将来計画検討 WG 第1回会合
2021/7/22	[ryunet:00773] 「電波天文将来計画検討ワーキング・グループ」進捗（活動）報告 1
2021/7/28	電波天文分野将来計画検討 WG 第2回会合
2021/7/31	シンポジウム開催「電波天文将来計画検討シンポジウム 2021」
2021/8/9	意向投票を実施（[ryunet:00788] 電波天文分野将来計画についての意向投票(8/31 まで)）
2021/8/20	電波天文分野将来計画検討 WG 第3回会合
2021/8/20	[ryunet:00795] 「電波天文将来計画検討ワーキング・グループ」進捗（活動）報告 2
2021/9/8	[ryunet:00807] 「電波天文将来計画検討ワーキング・グループ」進捗（活動）報告 3
2021/9/8	電波天文分野将来計画検討 WG 第4回会合
2021/9/13	宇電懇集会（日本天文学会秋季年会にあわせて開催）で WG の活動報告
2021/9/23	大西議長が岡委員長へ答申（電波分野の大型計画の順位つき推薦）を提出
2021/9/27	大西議長が ryunet で答申を公開（[ryunet:00823] 「電波天文将来計画検討ワーキング・グループ」答申+進捗（活動）報告 4）
2021/9/29	宇電懇運営委員会 答申について議論
2021/10/18	宇電懇運営委員から林分科会委員長へ推薦書を送付
2021/11/4	岡委員長から ryunet へ、推薦書の公開を通知（[ryunet:00852] 宇宙電波懇談会からの「日本学術会議マスタープラン 2023 推薦書」について）

宇電懇の答申の概要は次の通り。大型計画として SKA1 と ngVLA を 1 位、LST を 2 位で推薦、ATT10 を中型計画として推薦、LiteBIRD は別枠として順位に含めない。

4-6. 分科会の活動関連の情報

- ・ 大型中型計画シンポジウム開催（2021/8/4, 5, 10, 13）

宇電懇は 8/10 に実施。「大型」として 4 計画（SKA1、LiteBIRD、LST、ngVLA）、「中型 A」として ATT10 が報告を行った。

- ・ 分科会の活動

2021/10/29 分科会において SKA1, ngVLA および ATT10 をヒアリングの対象とすることを決定した
<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/bunya/buturi/25/pdf/tenmongaku-yoshi2504.pdf>

2021/12/7 分科会においてマスタープラン 2023 が中止となったことが正式発表された

2022/1/18 分科会において SKA1, ngVLA, ATT10 のヒアリングを実施した

2022/1/21 分科会においてマスタープラン中止後の説明があった

→推薦したプロジェクトの扱い＝「大型・中型将来計画の冊子」作成へ

→マスタープランに代わる将来構想（当初、骨太の方針と呼ばれた）＝「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」策定へ（2022/6/30 正式に公表）

4-7. 今後の作業

(i) 「大型・中型将来計画の冊子」の制作

冊子をどのように作成するか議論が行われている。以前に分科会が中心になって作成した「2010年の冊子」と「2014年の冊子」を参考とする。今回の冊子は2014年の冊子を真似る形で、内容は大型計画も含んだものとする予定。この作成のために、今回推薦を行った大型・中型計画の責任者に執筆を依頼する予定である。

2010年の冊子: <https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/3-0319.pdf>

2014年の冊子: <https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/3-140912.pdf>

(ii) 「未来の学術振興構想」の策定

2022/6/30、tennetで「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募を開始した通知があった。公募期間は令和4年6月30日（木）～12月16日（金）。これはマスタープランに代わるものである。

<https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/25koubo.html>

説明会が7/15、17:00に開催される。事前登録が必要（以下のサイト）。マスタープランに掲載を希望していた大型・中型計画の担当者はできるだけ説明会に出てほしいとのこと。（実施済み）

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0191.html>

5. URSI 関連報告（久野成夫、URSI 日本 J 小委員会）

- ・ 2022年9月1日-2日に、URSI-JRSM 2022が中央大学で開催される。Commission J (Radio Astronomy) のセッションも講演・ポスターの募集がある。([ryunet:01036] Fwd: 2022年 URSI 日本電波科学会議 (URSI-JRSM 2022) 開催のご案内を参照)
- ・ 2023年8月19日-26日に、URSI General Assembly and Scientific Symposium2023が札幌で開催される。
- ・ 宇電懇を通じて URSI 学術賞の受賞候補者の推薦を募った。受賞者は URSI-GASS2023 で表彰される。

6. 宇電懇運営委員会報告

今期はこれまでに2回、運営委員会が開催されている。議事録は追って公開する。

第1回 2022年4月20日（水） 10:30-12:00（オンライン）

第2回 2022年6月27日（月） 15:00-17:00（オンライン）

7. 事務局からお知らせ

4月に鹿児島大から国立天文台・先端技術センターへ事務局を引き継ぎました。いきなり Gmail の不達問題が発生しドタバタとしましたが、会員の皆様にもご協力いただき、何とか対応しているところです。登録メールについては、普段使っているアドレスを1件のみ登録してください。Gmail アドレスも登録できますが、Gmail への転送は不可となります。これまで会員であった方も、自動退会（3回続けてメールが不達）になってしまうことがあるので、ryunet が届かないなど気がつくことがありましたら、事務局まで連絡をください。

現会員の方には、新規会員の勧誘などをお願いします。若手の会員を増やすのも重要ですので、学生にもお声がけ願えればと思います。まずは事務局でも、国立天文台・先端技術センターの宇電懇会員を増やすべく活動を行っています。これからの2年間よろしくお願いします。

● gmail 不達対応の報告と ryunet 登録アドレスについて

本年4月の gmail セキュリティ強化の余波による gmail への ryunet メールの不達に関して、皆様にはご迷惑をおかけしております。だいたいお時間をいただきましたが、症状と対応を以下のようにさせていただきますと思います。gmail を利用されている皆様にはご不便をおかけする形となる場合もありますが、ご理解いただきますようよろしくお願いします。

● 発生している状態

- ・ ryunet へ登録アドレスから gmail へ転送をしている場合、gmail 側で「なりすまし」と認識されてメールが届かない。
- ・ ryunet へ登録しているアドレスにはメールは届いている。
- ・ ryunet へ直接 gmail アドレスを登録している場合は、メールが届いている。
- ・ gmail 以外のフリーのメールアドレスへ転送設定している場合(biglobe 等)、同様の事態が発生しているケースがある。

● サーバ側の対処

ryunet を使用しているレンタルサーバ(sakura.net)に問い合わせ、tennet と同様の対応を含めて検討したものの、具体的に有効な策がない。

● ryunet 登録アドレスに関するお願い

この状況をふまえ、事務局と運営委員会で相談し、ryunet への登録アドレスについて以下のようにお願いしたいと思います。

- ・ ryunet への登録アドレスは、日常使用しているアドレス1つを登録アドレスとして申請する
- ・ 登録アドレスから別のアドレスへの転送はできるだけしない
- ・ 転送設定がされている場合、転送先は ryunet メールが届かない可能性があることに留意いただく
- ・ アドレス複数登録は会員管理上煩雑となるため、原則遠慮いただく。

(ただしどうしてもと希望される場合はご相談ください。)

宇宙電波懇談会（宇電懇）事務局

国立天文台先端技術センター（ATC） 松尾（事務局長）、金子、小嶋

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

宇電懇事務局メール uden-jimu@udencon.sakura.ne.jp

宇電懇ホームページ <http://www.udencon.sakura.ne.jp/>

宇宙電波懇談会（宇電懇）入会のご案内

宇電懇とは？

電波天文学者（学生も含む）が組織する任意団体です。野辺山宇宙電波観測所を建設するために、電波天文学の研究者が自ら団体を組織して活動を行ったことがルーツです。ALMA の建設時にもユーザーコミュニティとして大きな役割を果たしました。現在の会員数（メーリングリスト登録者数）は 393 名です。電波天文学の研究者だけでなく、他分野の研究者も多く参加しています。

<http://www.udencon.sakura.ne.jp/introduction.html>

どのような活動をする？ 入会のメリットは？ 義務は？

研究者団体として、電波天文学の発展に貢献する様々な提言や推薦をします。たとえば国立天文台の運営にかかわる委員会の委員の推薦、日本学術会議に対する大型研究計画の推薦です。研究推進のために必要だと考える装置や施策を、研究者団体として発言できるわけです。

国際的な学術団体との関連もあります。宇電懇は、国際電波科学連合（URSI）の電波天文学部門の日本の支部会に相当します。

宇電懇には電波天文学者の交流の場という性格があります。メーリングリスト ryunet で研究会や公募の情報を受け取る・発信することができます。また電波天文学に関連した国内研究会「宇電懇シンポジウム」を年 1 回開催しますので、若手研究者は研究発表と交流の場として利用できます。

会員の義務は規定されていませんが、総会や様々な意見聴取にぜひご参加ください。

入会資格は？ 年会費は？

宇電懇の活動趣旨に賛同なさる方ならば、国籍・年齢・職業・性別を問わず、どなたでも加入できます。退会も自由です。現在は会費を徴収していません。入会金もありません。

申込は？

必要事項を記入したファイルを用意して、事務局までご連絡ください。

宇電懇 Web: <http://www.udencon.sakura.ne.jp/introduction.html>

お願い：年度初めに異動がある場合、各機関でまとめて入会／退会の手続きをしていただくと助かります。現在、名古屋大学と大阪公立大学はまとめてご連絡をいただいております。感謝しています。